

「親も子も諦めない」新しいライフスタイルを支えるサブスク型交通実証

応募様式A

北九州スマートまちづくり協議体

事業の基礎情報

実施主体	大英産業株式会社
事業実施地域	福岡県北九州市（および近隣都市圏）
共創の類型	官民共創 ・ 他分野共創
他分野共創の類型	こども・子育て・地域・移住
共創パートナー	北九州市・北九西鉄タクシー・scheme verge株式会社
運行形態	MaaS（対応としてはバス・タクシー・オンデマンド交通を想定）
運行主体	北九西鉄タクシー

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

2024年3月「基本構想・計画（最終案）」で2028年1000人転入超過を目標に掲げる北九州では、パワーカップルを中心とする若い世代を呼び込むためのまちづくり・交通環境の整備が不可欠である。一方、女性の社会進出が進み共働きが普及する中、勤務時間帯中に発生する保育園や習い事の送り迎えなど子供の移動・輸送に係る交通環境は、子育てとの両立を前提とした居住地選択におけるボトルネックとなっている。本事業では「親も子も諦めない」生活を目指し、柔軟な交通と複数の行先を結ぶ仕組みを構築し、その人流・交通・施設側のデータを取得することで、今後のまちづくり・交通システムの構築にも活かす。

（事業の概要）

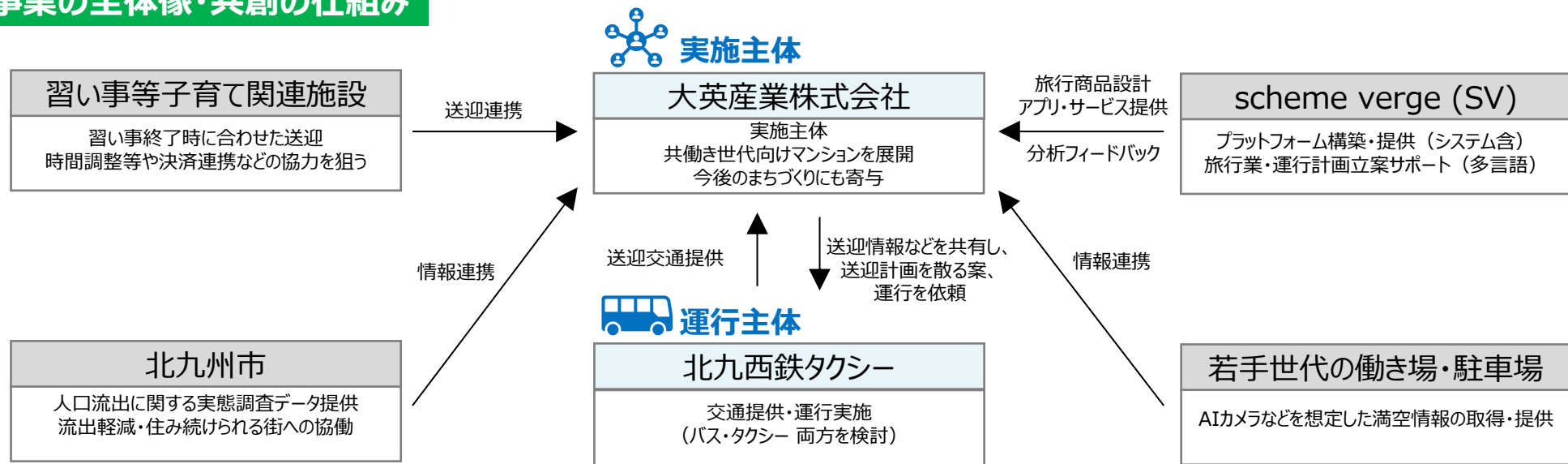
- ①パワーカップルなども含む子育て世代・共働き世代の課題解決をしたい交通・施設・IT・分析などの主体が集まり、
- ②単独移動が難しい移動弱者である子供や共働き世代の交通課題は、既存の交通での手当が少なく大きな課題を抱えている反面、大きな需要もあり今後の増加も想定されるため、それ向けのサービスを展開しうる。その実施により、（例：習い事の送迎、駐車場の満空情報と連携）
- ③子供の移動を支え、家族の交通を丸ごと月額課金などでスムーズに移動できるサービス（既存新規を適宜組み合わせる）を構築・実証する。

「親も子も諦めない」新しいライフスタイルを支えるサブスク型交通実証

応募様式A

北九州スマートまちづくり協議体

事業の全体像・共創の仕組み



取組の詳細

(地域の関係者との連携・協働)

北九州市は7割の学生は市外に就職するなど若手の流出に課題がある。20代には特に働き方改革が急務であり、また30代には子供の習い事などの整備が必要である。具体的には、朝夕のラッシュの時間帯以外の比較的路線バスなどが少ない時間帯に対し、子供の学校の後の移動（習い事など）を乗合バス・タクシーを実現させることで交通送迎を実施する。また、働き盛りの方々も働き方の変化により午後からの出社などの時に自家用車に頼らざるをえず、駐車場の関係から出社ができないケースなども増えており、移動弱者だけではなく、働き方にも対応が必要である。また、子供の単独移動の際にネックになる課金の問題解決のために、Web・アプリ経由で個々人が乗合オンデマンド交通および施設利用ができるサブスクでのパッケージを提供する（これらを通じて過去の調査で協力がまだできていない習い事等子育て関連施設の巻き込みも狙う）。これらの施策により、住み続ける街を作ることでの地域活性化を実現する。

(実証事業により見込まれる効果)

北九州市が掲げる20代、30代の転入超過（20-24歳：▲1,011人、25-29歳：▲596人、30-39歳：▲478人、2022年）の軽減を長期的な目標達成の主眼におき、パワーカップルを中心とする若い世代や外国人世代を呼び込むためのまちづくり・交通環境の整備の実証をすると共に、そこに必要なデータと協力者との協働を実施する。これにより大英産業としても既存事業より広い暮らし領域の事業拡大の礎とすることで社会課題の解決を狙う。

「親も子も諦めない」新しいライフスタイルを支えるサブスク型交通実証

応募様式A

北九州スマートまちづくり協議体

取組の詳細

(事業実施手順・スケジュール)

①R6 交付決定時 – R7 2月末
補助金としての事業開始
実証実験企画 / 関係者の巻き込み

②– R7 2月末
補助金としての事業実施
実証実験の実施 / 取りまとめ

③R7 3月以降 – R8 3月末
交通運行の本格的な継続運行
の検討、そのための論点実証

④R8 3月末 以降
社会実装
継続化

①R6 交付決定時 – R7 2月末：補助金としての事業開始

実証実験企画 / 子育て関連施設などの関係者の巻き込み（夏頃までを目処：4者合同）

アンケート実施（見込み顧客を兼ねる by 大英産業&SV）、プラットフォーム構築 + 既存施策との連携(by 大英産業&北九州市&SV)、交通運行を伴う実証実験（無償・予約制かどうかは検討、by SV&北九西鉄タクシー）

②– R7 2月末：補助金としての事業実施

実証実験の実施 / 取りまとめ

実証事業（有償・登録制→サブスク型などを検討、by SV&北九西鉄タクシー）、事業化推進(by 大英産業&SV)

③R7 3月以降 – R8 3月末

交通運行の本格的な継続運行の検討、そのための論点実証（4者合同）

④R8 3月末 以降

社会実装、継続化（4者合同）

(補助事業実施後の予定)

中長期の想定スケジュールとしては上記の通り。内容は下記を想定。

・目標：子供の習い事等に対する交通送迎やサブスク運賃を実施することで、働き世代・子育て世代にとって住みやすい居住環境作りを目指し、北九州市が掲げる転入超過の目標達成に寄与させる

・また、事業全体としても交通やマンション・ビジネスのみならず、暮らし領域全体の事業拡大を想定し、そのプラットフォームを本実証の成果物をプロトタイプとして発展させることで建物のハードとソフトを組み合わせたスマートシティの実現も狙う（参考資料 1）

・資金源としては、習い事送迎、共働きをしている方々の会社などからの収入と利用者家族（エンドユーザー）からの収入との両方から収入源とする（参考資料 2）